

# 岡崎敬語調査資料の 基礎集計グラフ作成テンプレート

A template for basic figures of materials of  
the Okazaki Survey on Honorifics

(Ver. 1.1)

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

柳村裕

YANAGIMURA Yu

平成 27 年 4 月 28 日

28 Apr 2015

## 1. 概要

このグラフ作成テンプレートでは、岡崎敬語調査資料の基礎集計結果を表す複数のグラフを、同時に、簡単に作成することができる。集計対象の反応文について、各種変数ごとに、任意の項目の平均値を表示するグラフを作成する。作成されたグラフからは、任意の項目の経年変化や、場面による差異、話者属性による差異などを読み取ることができる。

### 集計対象

- ・岡崎敬語調査資料の反応文のうち、ランダムサンプルの 101～112 の 12 場面

### 除外項目

- ・パネルサンプル
- ・第 1 次調査の場面「物売り」
- ・101～112 以外の場面
- ・第 1 次調査の 60 代（人数が少ないため）
- ・NR（無回答）

### 集計・分類変数

- ・調査次（1 次～3 次）
- ・PC（プロパー vs. コントロール、Professional vs. College または本グループ vs. 比較グループ）
- ・場面（101～112、ただし 1 次の「物売り」を除く）
- ・丁寧さの段階付け（丁寧さ 1～丁寧さ 3）
- ・生年（10 年ごと、1 次は 10 代～50 代、2 次と 3 次は 10 代～70 代）
- ・性別（男性、女性）
- ・学歴（低、中、高学歴）

### 計数項目と集計結果の例

このテンプレートでは、任意の項目の数値データ（「計数項目」と呼ぶ）を入力し、その平均値を表示するグラフを作成する。計数項目は、例えば、反応文における特定の形態素の有無や、その出現数、反応文の「丁寧さの段階付け」、文長（文字数、モーラ数、音節数など）といったものが考えられる。

例えば、計数項目が「丁寧さの段階付け」であれば、「丁寧さ 1」を 1 点、「丁寧さ 2」を 2 点、「丁寧さ 3」を 3 点として数値データを入力する。この場合、丁寧さの平均点を計算する。また、反応文における特定の要素の使用数、例えば「テイタダク」の使用数を計数項目とする場合、各反応文のテイタダク使用数を数値データ「0、1、2、3・・・」で入力する。この場合、テイタダクの平均使用数を計算し、「一つの反応文あたり、テイタダクを

何個使用するか」を表す。あるいは、計数項目が反応文におけるテイタダクの有無であれば、テイタダクを含まない文を「0」、テイタダクを含む文を「1」とする「0、1」データを入力する。この場合、やはりこの入力値の平均を計算するが、これは「当該カテゴリーの全反応文のうち、テイタダクを含む反応分が占める割合」を表す。

## 2. グラフの種類と見方

以下の記述は、これまでに発表した『大規模経年調査資料集』のうち関連するグラフの読み取りの説明にあたる。

### 折れ線グラフの見方

折れ線グラフは全て、縦軸に計数項目の平均値を示す。横軸には年代をとり、グラフごとに調査次または話者の生年を表す。図 1-2 を除く全てのグラフで、調査次の区別が曲線の種類によって表示される。点線が 1 次、破線が 2 次、実線が 3 次を表す。また、同様に図 1-2 を除く全てのグラフで、第 1 次調査のプロパー (P) とコントロール (C) (本グループと比較グループ) を区別する。黒マーカーが P を、白抜きマーカーが C をそれぞれ表す。PC の区別が表示されていないグラフでは、第 1 次調査の値は C を含まず、P のみを表示する。

### 散布図の見方

散布図は全て、特定の変数の異なる水準ごとに集計された計数項目の平均値を各軸にとる。例えば、横軸に第 1 次調査の平均値、縦軸に第 2 次調査の平均値をとるなどである。また、全ての散布図において、計数項目の平均値を場面ごとに計算し、各プロットが各場面の平均値を表す。散布図が第 1 次調査の値を含む場合は、C を含まず、P の平均値のみを表示する。

#### 図 1-1 11 場面全体 調査次

調査次ごとに 11 場面全体を平均した計数項目の値を示す。計数項目の調査次による変化(経年変化)のパターンを表す。

#### 図 1-2 場面ごと調査次

調査次ごと、および場面ごとに平均した計数項目の値を示す。図 1-1 の各値を場面ごとに分けて表示したものである。各曲線が一つの場面に対応し、各場面での計数項目の調査次による変化(経年変化)のパターンを表す。全体として、計数項目の経年変化パターンの場面による違いを表す。

### 図 2-1 11 場面全体 調査次ごと年代

調査次ごと、および話者の年代（生年）ごとに平均した計数項目の値を示す。11 場面全体の平均値である。図 1-1 の各値を年代（生年）で分けたものである。4 本の曲線は上述の通り調査次および PC の区別に対応する。つまり各曲線は 1 次 P、1 次 C、2 次、3 次の値をそれぞれ示す。曲線ごとに見ると、各曲線は、各調査次における計数項目の年代（生年）による差異（見かけの時間上の変化）を表す。全体として見ると、計数項目の大きな経年変化パターンを表す。また、縦に見て、特定の年代において曲線間で比較をすると、その年代における話者の年齢による差異（実時間上の変化）を知ることができる。

### 図 2-2～2-3 散布図 場面ごと調査次

調査次ごと、および場面ごとに平均した計数項目の値を示す。各プロットが一つの場面に対応し、調査次による計数項目の差異（経年変化）を表す。図 2-2 では 1 次と 2 次、図 2-3 では 1 次と 3 次の値を比較する。斜めの線の左上か右下かに着目すると、増減が分かりやすい。

### 図 3-1～3-6、4-1～4-6 場面別調査次ごと年代

11 場面のそれぞれについて、調査次ごと、および話者の年代（生年）ごとに平均した計数項目の値を示す。図 2-1 を、場面ごとに別グラフで示したものである（図の見方は図 2-1 の解説参照）。図 3-1 から図 4-6 の順番は、第 3 次調査での計数項目平均値が高い順に並ぶ。

### 図 5-1 11 場面全体 性別ごと調査次

話者の性別を区別して、調査次ごとに 11 場面全体を平均した計数項目の値を示す。図 1-1 の各値を話者の性別で分けて別曲線で示したものである。男女別に、計数項目の調査次による変化（経年変化）のパターンを表す。

### 図 5-2～5-3 男女別調査次ごと年代

話者の性別を区別して、調査次ごと、および話者の年代（生年）ごとに平均した計数項目の値を示す。11 場面全体の平均値である。図 2-1 を、話者の性別ごとに別グラフで示したものである（図の見方は図 2-1 の解説参照）。

### 図 5-4～5-6 調査次別 場面ごと性別

調査次、話者の性別、および場面を区別して、計数項目の平均値を示す。調査次ごとに別グラフで表示し、いずれも横軸に男性の値、縦軸に女性の値をとる。各プロットが一つの場面に対応し、話者の性別による計数項目の差異を表す。

#### 図 6-1～6-4 男女別 場面ごと調査次

話者の性別、調査次、および場面を区別して、計数項目の平均値を示す。図 2-2 と図 2-3 のそれぞれを、話者の性別ごとに別グラフで表示したものである（図の見方は図 2-2～2-3 の解説参照）。

#### 図 7-1 11 場面全体 学歴ごと調査次

話者の学歴を区別して、調査次ごとに 11 場面全体を平均した計数項目の値を示す。図 1-1 の各値を話者の学歴で分けて別曲線で示したものである。学歴別に、計数項目の調査次による変化（経年変化）のパターンを表す。

#### 図 7-2～7-4 学歴別調査次ごと年代

話者の学歴を区別して、調査次ごと、および話者の年代（生年）ごとに平均した計数項目の値を示す。11 場面全体の平均値である。図 2-1 を、話者の学歴ごとに別グラフで示したものである（図の見方は図 2-1 の解説参照）。

#### 図 8-1～8-6、9-1～9-3 調査次別 場面ごと学歴

調査次、話者の学歴、および場面を区別して、計数項目の平均値を示す。各グラフは、3 回の調査次のいずれかについて、学歴水準 3 段階（低、中、高学歴）のうちの一つを各軸にとってその差異を比較する。各プロットが一つの場面に対応し、当該調査次における話者の学歴による計数項目の差異を表す。

以上の各種グラフにより、数値の大小、変化の有無などを視覚的に把握することができる。数表より解釈がしやすい点が有効である。

### 3. グラフ作成の手順

このテンプレートのエクセルファイルには四つのシートが含まれる。「使い方」「集計入力」「集計編集」「グラフ」の四つである。データ入力等の操作は主にシート「集計入力」で行う。作成されたグラフはシート「グラフ」に表示される。

#### データの準備・入力

シート「集計入力」で、「計数項目」と書かれたセルの下の範囲（セル AM4～AM13194）に、各反応文の計数項目を数値で入力する。あるいは、他のファイルで計数項目を入力済みの場合、反応文をこのファイルと同じ順に並べて、「計数項目」の下の範囲に貼り付ける。ただしこの場合、反応文の順番は、このファイルの順番と正確に同じでなければならない。

入力の際、NR（無回答）は空白または任意の文字列（「NR」等）にする。数値で「0」

と入力してはいけない。また、計数項目が要素の有無を表す「0、1」データや、出現回数  
を表す「0、1、2、3・・・」データの場合、当該要素を含まない反応文には数値で「0」と  
入力する。空白にしたり、文字列（「無し」等）を入力したりしてはいけない。

### グラフ作成・更新

上の手順で計数項目の数値データを入力した後、引き続きシート「集計入力」でグラフ  
の簡単な設定を行う。まず「日本タイトル」「英語タイトル」のそれぞれの下のセルにタイ  
トル（計数項目名など）を入力する。これはグラフタイトルにそれぞれ表示される。次に  
「計数項目軸の最大値」「計数項目軸の最小値」のそれぞれの下のセルに、グラフ表示範囲  
の最大値・最小値を入力する。この「計数項目軸」とは、年代を横軸にする折れ線グラフ  
では縦軸にあたり、散布図では縦軸と横軸の両方にあたる。ここで設定した値がすべての  
グラフで共通の最大値・最小値となる。個々のグラフで異なる表示範囲を設定する場合、  
全体の設定後に個別に変更する必要がある。また、グラフィックレイアウト等のその他の設定も  
個別に調整する必要がある。

以上の設定後、「グラフ作成・更新」ボタンを押すと、シート「グラフ」にグラフが作成  
される。また、いったんグラフを作成した後に、計数項目の入力値や設定を変更して再び  
「グラフ作成・更新」ボタンを押すと、グラフが更新される。

岡崎敬語調査資料集 13

Material for Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

岡崎敬語調査資料の  
基礎集計グラフ作成テンプレート

A template for basic figures of materials of  
the Okazaki Survey on Honorifics

(Ver. 1.1)

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著： 柳村裕

YANAGIMURA Yu

発行：平成 27 年 4 月 28 日 28 Apr 2015

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2 Tel. 042-540-4300 (代)

10-2 Midori-cho, Tachikawa City, Japan 190-8561